

## 「東北発 2006年度 高校生国際化プロジェクト 100」

シリーズ  
第4弾

### 海外の大学留学は 就職に役に立つか？

国際教育&キャリアサポート

tiBec 代表取締役 多田克士



現在、全国で64万人といわれる二一ト、そして200万人を超えるといわれているフリーター。驚くことに、その3分の1が大卒だといえます。大卒でも定職に就かない大きな理由は、やはり「やりたい事」が見つからないからでしょう。ではなぜ、彼らは「やりたい事」を見つけれないのでしょうか？

その大きな原因は、一度進路を決定してしまうと、変更が難しいという日本の大学制度に起因すると思います。例えば、大学の専攻分野。入学後に専攻を簡単に変更することはできません。そのため、入学したものの自分の専攻に興味を持てないまま勉強せざるを得ない学生もたくさんいます。結局やりたい事がわからないまま、就職活動させざるを得ない状況に追い込まれるわけです。その結果、日本の学生の就職活動は、会社や職業のイメージでしか選べず、それが就職後のミスマッチにつながっているのだと思います。

自分が学びたい分野を学べる可能性が高くなるわけです。往々にして、海外の大学を卒業した学生は、就職の際、日本の多くの学生のように、会社や職業をイメージだけでなく、「自分がやりたい仕事」で選ぶことが多いです。

留学において重要なことは「自分がやりたい事」をどうも突きつめて考えることです。いろいろな授業を受けながら、自分の好き嫌いを判断し、それを職業に結びつけてもらいたいと思います。海外の大学では入学後でも、やりたい事を考える猶予期間があります。そして、やりたい事が見えてきたら、そのための専門知識の習得や経験を積めるチャンスも大いにあります。しかも英語で。そうすることで、「専門分野の知識や経験をもち、しかも英語ができる」ように成り得る。ここが大事なポイントです。多くの人が誤解しているところですが、英語を勉強するためだけの留学はキャリアアップにはつながりません。きっかけは英語でも構いませんが英語は単なるツールです。留学をキャリアアップに役立たせなければ、自分がやりたい事に関連した専門分野のある一定期間、本気で勉強することが絶対不可欠です。

最初から自分が思うような職業を見つけないことは、至難の業です。だからこそ、たくさん学び、時には失敗し、そこから自分が本当に何をやりたいのかを見つけてくれるような仕組みを若者に提供することが私たちの使命だと考えています。その一つとして海外大学留学をお勧めしたい。ぜひ、多くの若者に「本当にやりたい事」を見つけてほしいと強く願います。